

＜落とし込みダブルギャフ（特許）－中軸－青物取り込みシステムの取り扱い説明書＞

－型式：WG6190BN/NS/W/WT

「ギャフ」の名称で特許が取得できた日本で唯一の製品
高場からの単独ギャフ掛けを実現

－落とし込みダブルギャフ（特許）－中軸－青物取り込みシステム－N/NS/W/WT仕様－

型式：WG6190BN（ナイロンガイド＋アルミカラビナ）

WG6190BNS（ナイロンガイド＋ステンレスカラビナ）

WG6190BW（PVCコーテッドワイヤーガイド＋ステンレスカラビナ）

WG6190BWT（ワイヤーガイド＋ステンレスカラビナ＋太ロープ）

寸法（設計値）：

ギャフ本体：軸径9mm、フック軸径6.4mm、全長19cm、全幅9.6cm、フトコロ7cm、フック幅8.6cm

ギャフ自重：225g

ロープ：N/NS/W－径6mm×長さ13m

：WT－径8mm×長さ14m（ナイロン編みロープ）

ガイド：N/NS－ナイロン3φ

：W－PVCコーテッドワイヤー4φ/WT－ワイヤー2φ

システム総重量：N－525g / NS－573g / W－575g / WT－867g

適用範囲：2kg～20kg（N/NS/W）/24kg（WT）（耐強度はフック一本で60kg）

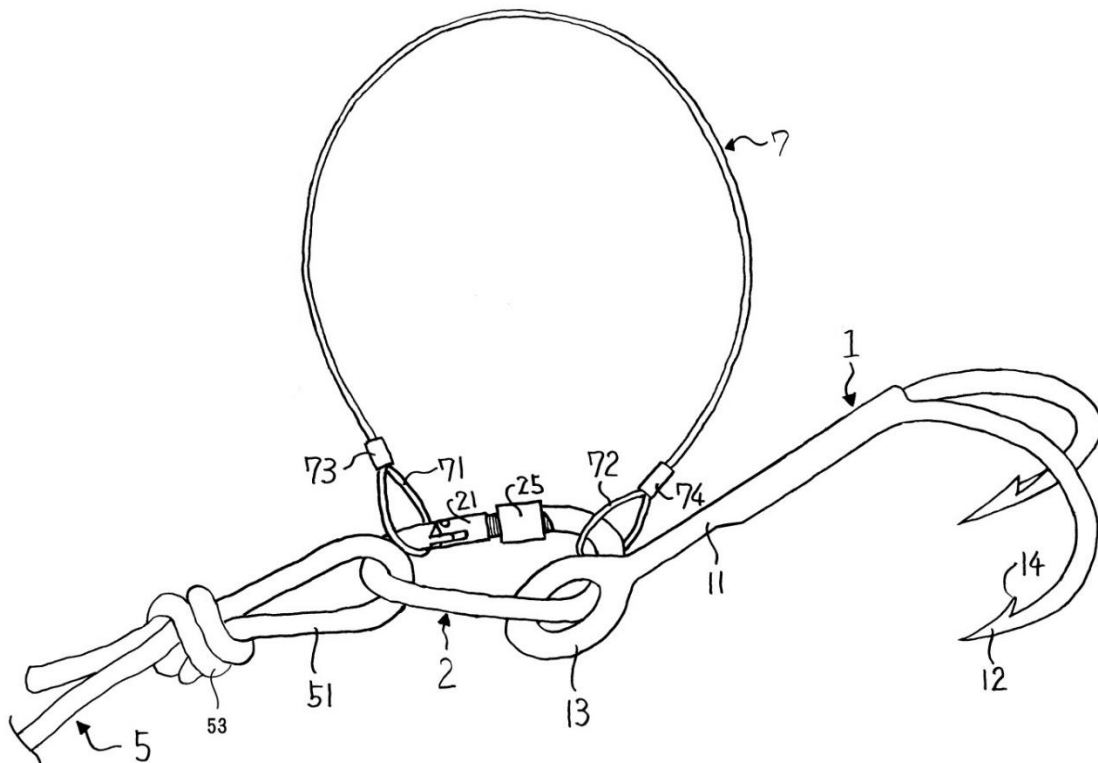
適用高距：2m（餌釣りは3m）～12m（N/NS/W）/13m（WT）

材質：本体－ステンレス（フック部－高強度鋼・焼き入り）、カラビナはN－アルミ / NS/W/WT－ステン

対象魚：青物、シイラ、ヨコワ、キハダ、回遊魚等

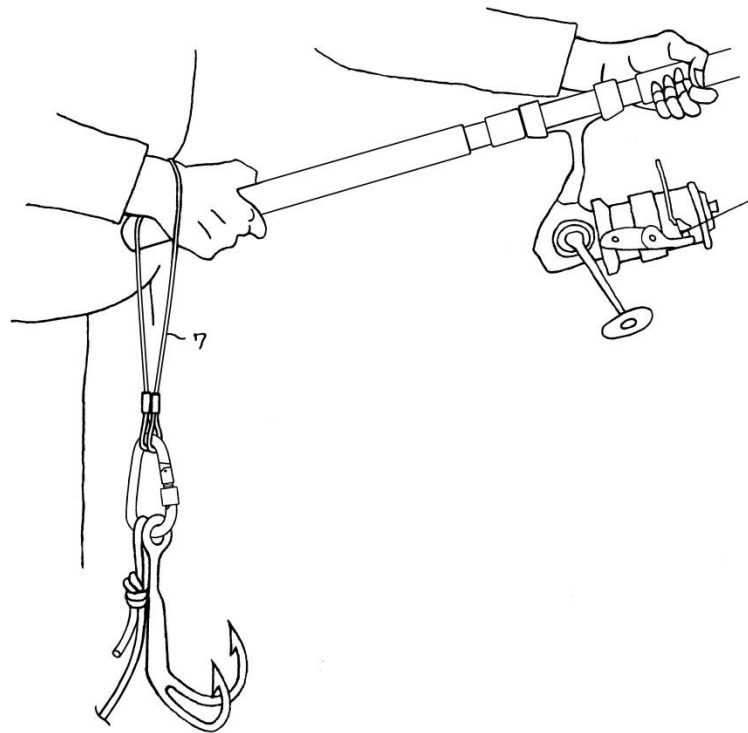
製法：ハンドメイド

図1



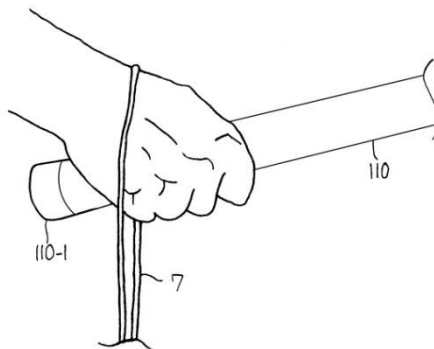
＜図1は中軸－青物取り込みシステム－N/NS/W/WTの全体図を示す＞

図 2



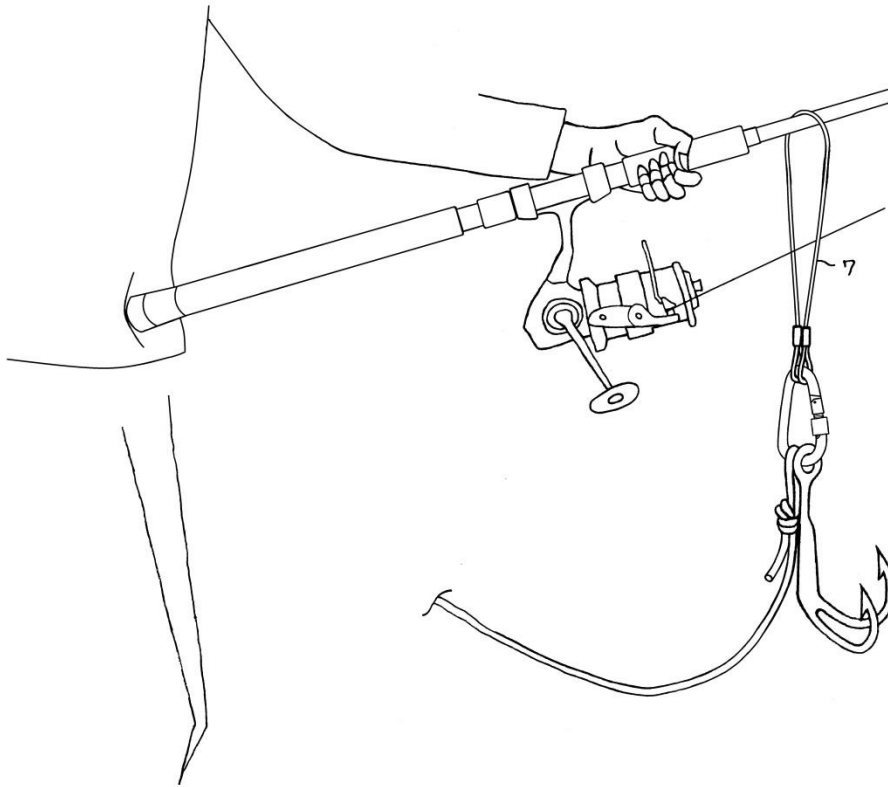
<図2は竿尻通し方式を基本とする本システムのループ体（ガイド7）を手首に掛け、取り付けを開始する状況を示す
>

図 3



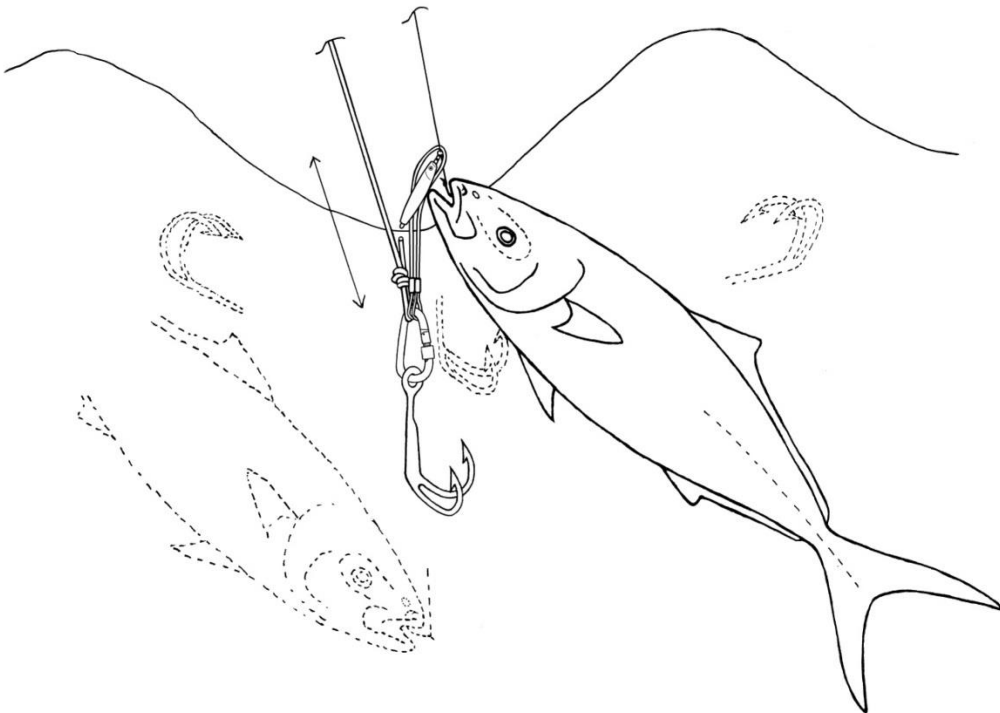
<図3はループ体（ガイド7）を手首に掛けたまま竿尻を腹部から離し、手首を起す事により、ループ体が元竿上に通った状況を示す>この後、再び竿尻を腹部に戻す。

図 4



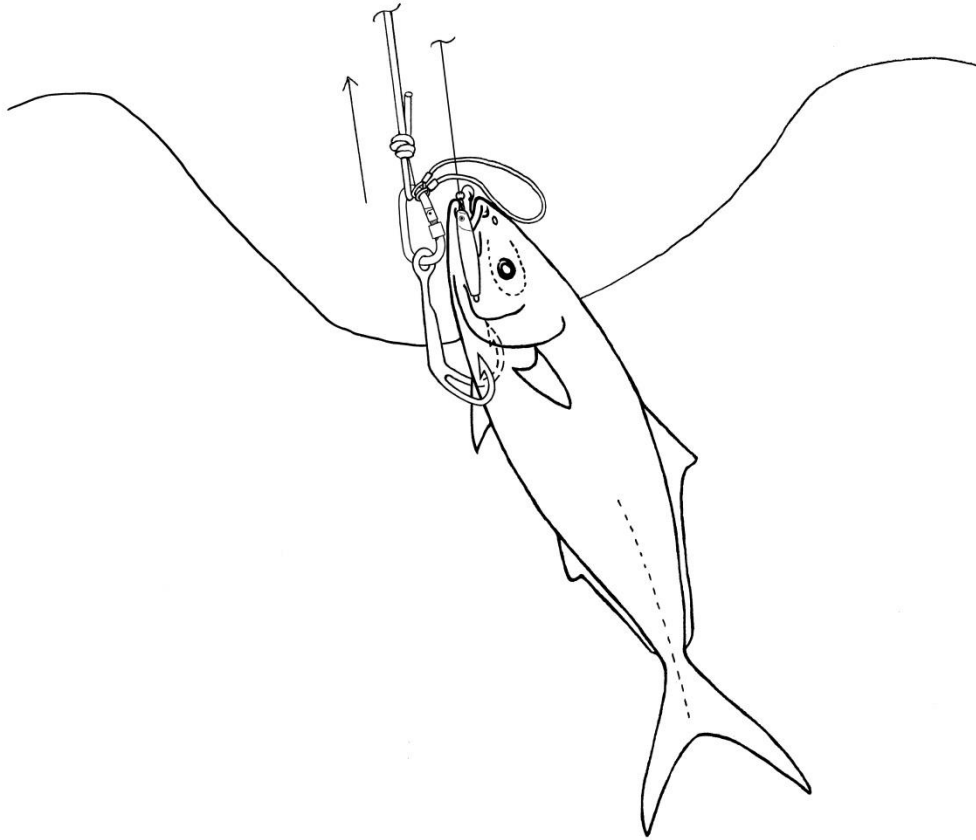
<図4は元竿上に通ったループ体（ガイド7）を前進させ、リールを越えてその前に出した状況を示す>
 リール通過は正確にはガイド7の他端72は安全環25の下側に位置させたまま（=両端71、72を安全環25の両側に位置させたまま=図1の状態のまま）、リール通過させる（両端71、72共上に来ている図2は不正確）。其れにより、輪の大きさをループ内縦寸法+カラビナ内縦寸法（約7cm）と大きくできるので、リールを通過させやすい（ハンドルを先に通過させた方がうまくいく）。リール通過後に他端72を、安全環25を超えて一端71横（上側）に持つていくことにより、輪を小さくして小型魚の輪内通過を防ぐ。この後竿を傾けてギャフを落とすが、ロープを手の中を滑らせながら落とす。

図 5



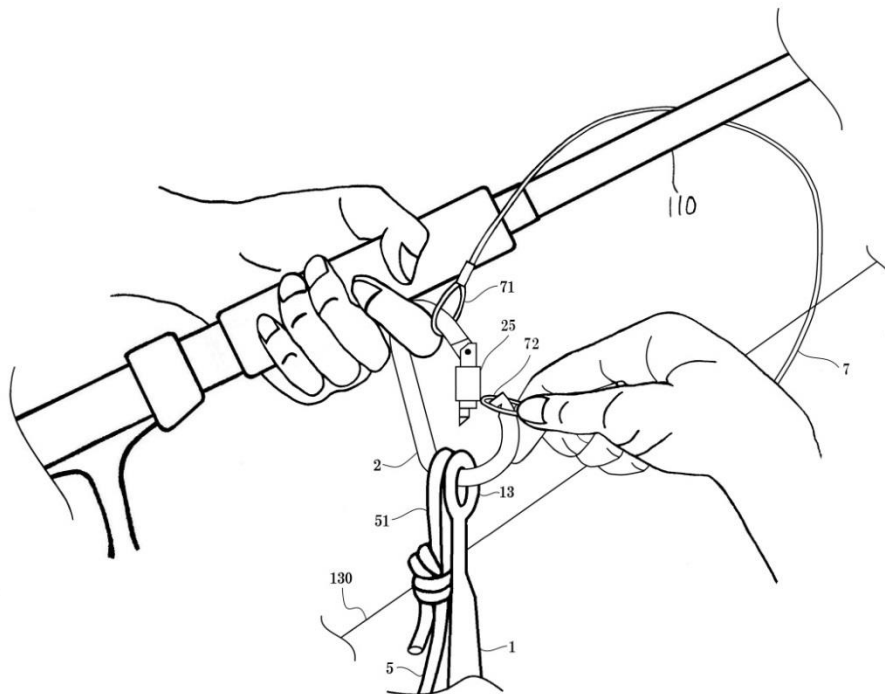
<図5はフッキングのメカニズムを示す>ロープを掴んだ手を上下させ、ギャフを揺り動かしてやると、程無くズシリと重みが掛かる。

図 6



＜図 6 は重みを感じた手で、強くロープを引っ張る事により、ギャフが食い込んだ状態を示す＞食い込みがカエシ迄到達すれば、もはやギャフは外れない。

図 7



＜図 7 はリールが大きすぎて、ループ体 (7) がリールを越えられない場合に行う、巻き付け方式を示す＞竿を持つ手の人差し指にカラビナ (2) を掛け、リールの前側でガイド (7) を道糸 (130) ごと竿 (110) に巻いてやり、他端の小ループ部 (72) をカラビナ (2) に掛け、安全環 (25) を回し、ロックする (竿を立てたまま、片手で可能)。これにより図 4 の状態になる。

1) 序文

本落とし込みダブルギャフは高場（高い足場）からの単独取り込みを高い確実性で可能にするものです。本中軸一青物取り込みシステムは、ガイドの役目を果たすループ体7を竿尻から通してリールの前に出し（リールが大型でループ体7がリールを通過できない場合は、ループ体7の他端72を事前に安全環付カラビナ2から外しておいて、取り込み時にリールの前側で、巻き体として道糸ごと竿に巻いて、カラビナ2に掛けてやる巻き付け方式を実行・・ショアジギング用中～大型スピニングは全て通過できます）、その後竿伝い、道糸伝いにギャフを落とす使い方を基本とします。この点に於いて、道糸を手で掴んで道糸にガイドを掛ける従来方式とは基本的に異なります。本ギャフシステムの最大の利点は、単独での取り込みに於いても、竿を立てた状態を維持したまま（＝ラインテンションの喪失無く）ギャフのセッティングを完了出来る事であり、且つ、リールのドラッグが機能しない状態を一時的にも引き起こす事無く（＝高いサージテンションの発生無く）、ギャフのフッキングに到達出来る事です。ギャフを落とす時には竿先を下げますが、此の時はリールを巻きながら下げる訳ですから、ラインテンションの喪失は起こりません。従来方式（ガイド道糸取り付け型ギャフ）で、ラインを手で掴めば、5m有る竿の弾力が無くなるわけですから、魚が手前に突っ込んだ場合等に、ラインテンションの喪失は避けられません。又、この状態では既に竿は横に置かれている訳ですから、リールのドラッグは機能しません。この時、魚が向こうに引っ張れば、高いサージテンションの発生は避けられません。これに対して、本ギャフシステムでは、単独であっても、竿の弾力とリールのドラッグ機能のこの二つを同時に維持したまま（＝魚のコントロールを維持したまま）、ギャフのフッキングに到達できます。

これにより、本落とし込みダブルギャフとそのシステム、及びギャフ掛け方法（取り込み方法、やり方）は特許が認められました（特許全八項目、特許第4988949号及び特許第4988970号、及び実用新案一項目、登録第3176635号、「落とし込みダブルギャフ」は登録商標、登録第5540603号）。

2) 基本説明

本品は、システムの威力が絶大である為、フックの本数や針先の張り出しに頼る必要がありません。必ずフッキングします。これにより、フックの本数を二本に抑える事ができ、且つ針先を内側に向ける事が可能となりました。これは二点の効果を實現します。第一は、引っ張った時のロープの方向と針先の方向が略一致する為、重みを感じてロープを強く引っ張る事により、ギャフをカエシ迄深く引き刺す事ができます。第二は、針先が内側を向いた事により、針掛かりしていない残りのフックの、引き上げ途中に於ける、障害物への引っ掛かりの問題を軽減します。磯だけでなく、堤防表面も凹凸が激しいです。本ギャフは引上げ時にはリングが起きますから、針先も起き、表面から離れます（＝浮きます）。小さな凹凸は擦るのではなく回避できます。磯での使用も可能となりました。本ギャフシステムは掛けるのはシステムの力で掛け、障害物の回避はギャフの構造の工夫で行います。

本品は、大型青物、シイラ等を主体として、2kg～20kg/24kgの魚を対象とします（耐強度はフッカー一本で60kg）。カエシ迄刺されば、抜けません。ギャフ及びシステムの耐強度は60kgですが、ロープ径が6mm/8mmですので、引上げ限界は現実的に約20kg/24kgです。ロープ径は最も使用頻度が高いと思われる3～4kgから17～18kgの魚に合わせたものです。20kg/24kg以上の魚に適用される場合は、もっと太いロープに付け替えて下さい。ギャフ自体の耐強度は60kgですが、強度は熱による組織変化により、個体差があり、本品はこの数値に関して、如何なる保証も致しません（参考値として留意し、壊れない範囲で使ってください）。本品はメーター級の魚に適します。「4kg位迄はぶり上げ、それ以上はギャフで」といった人に本品はベストマッチです。

従来法で、5mを越える高場から5kgを越える大物を、単独で（自分一人で誰の手助けも無く）取り込む事は、一タモであれギャフであれ一、至難の業でした。本品は大物の高場からの単独取り込みを高確率で可能にします。本ギャフシステムでは、十分に離れた高く安全な場所から、魚にギャフを送りつけ、フッキングさせ、約2kgから約20kg/24kgまでの魚を足元まで上げることが、完全単独で、高い成功率でできます。然も高い携行性（持ち運び易さ、収納の容易さ、軽さ）を有します。本ギャフシステムは、一人である事、距離がある事が、更には魚が大きい事ですら、障害にならず、安定した姿勢を維持したまま、容易且つ確実にフッキングに到達できます（通常10秒から20秒程、長くても一分以内）。本ギャフシステムの使用方法が知られるにつれ、大型長柄タモは無くなる運命にあると言えます。

3) 事前準備「ロープ扱き」→図1参照、シイラビデオ5及び撮影失敗編出だし参照

出荷時点でロープ5の両端に作ったループの片方51をカラビナ2に掛けてあります。使用時にはこのループ51をカラビナ2から外し、結び53を解き、下記に示すロープ扱きを必ず実行して下さい（必須）。これはロープ内ストレスを解消し、使用時のロープトラブルを回避するために絶対必要です。輪にしたロープを解いた時点で、キンク（よじれ＝内在ストレス）が発生しているのに其れを放置したまま釣りを開始する事は、タモを組み立てないまま釣りを開始することに等しく、致命的です。「ロープ扱き」は、使用前に必ずやる必要があります。ギャフを落とす時には片手は竿を支えている訳ですから、残りの片手しか使えません。ギャフを落とす途中でロープが纏れてしまったら、如何にもなりません。纏れはキンク（内在ストレス）が引き起こします。ロープギャフを使いこなす事はロープを使いこなす事と同義です。ロープには撚りロープと編みロープとがあり、本品は編みロープです。編みロープには撚りは入っておらず、本来、キンクは発生しません。然しながら、ロープは持ち運びする時には通常、輪にして持ち運びます。此の輪にする時に、巻く毎に捻ってしまっているのです（捻るつもりがなくともそうなります）。其のまま、両端を持って引き延ばせば、ロープ内に多数の捻じれが存在する事になります。此れがキンクを引き起こす要因となります。此れを解消する「ロープ扱き」は下記の様になります（シイラビデオ5及び撮影失敗編出だし参照）。ロープ端のループ51をカラビナ2から外し、結び53を解いた上で、ロープ他端（52）を、手の甲を上に向けた状態で、左手で持ち（手刀側がロープ他端52）、その横で親指同志がくっ付く形で、右手でロープを軽く持ちます。左手でロープを掴んだまま、ロープを持った右手を水平方向右に大き

くスライドさせます。次に左手を右手横に持ってきて、再び左手でロープを掴み、右手を右に一杯までスライドさせ、此れを端（一端51側）までやります。今度は反対側の端（一端51側）から同じ事をやります。此れを2～3回やります。此れでキंक（よじれ）は完全に取れます。この作業を、「ロープを扱（しご）く」と言います。両端に再びループ（51, 52）を作り、その片方51（一端側）をカラビナ2に掛け、安全環25をロックします。最後に他端側（52）から、ロープ5を輪に巻き、他端側（52）が下に位置し、ギャフ1側が上に位置する様に配置するか＜A：重ねずらし方式＞、又はジグザグに配置しく＜B：九十九折れ方式→シイラ用ビデオ参照＞、ループ体7（ステンレスワイヤー）を手首に掬い取りやすい様に、足元近くの邪魔にならない場所に、注意を持って配置します。此れで準備は完了です。この作業は慣れれば1～2分で出来る筈です。両方式の詳細は下記の通りです。

A) 重ねずらし方式詳細：重ねずらし方式は、扱きが終わりに、一端側（ループ51）をギャフにセットしたロープの他端側（ギャフとは反対の側＝上述の通り、ここにもループ52を作っておく）から、再び輪に巻き、此れを他端側52が下で、一端側（51＝ギャフ1側）が上の姿勢で、横方向にスライドさせ、部分的に重ねながら、ずらし、配置します。即ち、トグロ巻いた蛇が動き出す時の姿勢（頭がギャフ）に、配置します。こうする事によって、ギャフが落ちる時、ロープが順番に引き出され、纏れづらくなります。此れのマスターレベルが、ずらさない完全重ね方式（→HP青物用ビデオ参照）です。扱きとその後の巻きがちゃんとできていれば、ずらさないでも、ロープは纏れません。此れがやれるようになれば本ギャフが完全に使いこなせているという事になります。

B) 九十九折れ（ジグザグ）方式詳細：50～60cm間隔でロープをジグザグに折り曲げ配置します（→HP青物用シイラ編ビデオ参照）。此れは確実に順番にロープが引き出されますから、本ギャフ使用が初めてでも、失敗のリスクがありませんので、本ギャフを初めて使用される方にお勧めです。然し、重ねずらし方式に比べ準備が多少面倒です。

ロープギャフの事前準備とはバッグから出して輪を解いておけばよいという事ではありません（輪を解いてもおかないなど論外）。ロープ扱きをしない人はロープギャフを使いこなす事は不可能と断言します。両方式とも、ギャフを落とす時は、手の中でロープを滑らせ、余分なロープを出さないようにし、着水と同時に合わせに入ります。

4) 使用方法（特許）

本中軸－青物取り込みシステムは、ガイド両端（71, 72）をカラビナ（2）に掛け、其れにより、ループ体（7）を完成させ、此のループ体（7）を手首に掛け、手首から元竿上に移し（＝竿尻通し方式）、リールの前へ出し、竿伝い、道糸伝いに落す使い方を基本とします。想定リールは青物用中大型リールです。GT用特大スピニングもハンドルを手前に位置させ、ハンドルから先に通せば、リール通過可能です。ループ体（7）の正確な内周は、カラビナ内長寸（約7cm）も含めて、約58cmです。自分のリールをループ体（7）が通過できるかどうか、購入前確認したい場合は、紐で58cmの輪を作り、竿にリールをセットして、この紐が通過できるかどうか試す事により、確認できます。リールが大きすぎてループ体（7）がリールを通過できない場合はガイド（7）を巻き体としてリールの前側で道糸（130）ごと竿（110）に巻きつける方法（＝巻き付け方式→図7）を実行する事になります。此れに付いては、次項で詳しく述べます。

①魚を寄せた後、竿尻110-1を腹部に位置させ、左手で竿110を支え、右手でリールハンドルを掴んだ基本姿勢から、腰を少し下げ、右手をハンドルから離し、足元近くに事前配置したギャフセット（図1の状態）のループ体7を右手首に掛ける。その状態で竿尻110-1近くを掴み（図2の状態→ループ両端描写不正確）、竿尻を腹部から外す。

②平面視（上から見た状態）腕方向と竿軸方向とを一致させながら、手首を起こすと、ループ体7が竿尻110-1を通過する（図3の状態）。

③その状態で、竿尻110-1を元の腹部に戻す。

④此れで、ループ体7が元竿110上を通った。そのままループ体7を前進させ、リールを越えてその前に出す（図4の状態）。此れで竿を立てた状態を維持したまま、単独でギャフセットの取り付けは完了した。リールの通過は、ハンドルを手前側に位置させ、先にハンドルを通過させた上で、次に本体を通過させればスムーズに行く。リールの通過時はループ体（7）の小ループ部の片方（72）はカラビナ（2）の安全環（25）の下側に位置させ（図1では右側）、其れにより、ループ体（7）内周寸法+カラビナ内長手寸法（即ち輪が大きい状態）で通過させ、通過した後は、前記片方（72）を安全環（25）の上側に移動させ、其れにより、内周寸法のみ状態（輪が小さい状態）を作る（→小型の魚が輪の中を通過するのを低減する事ができる）。→図2のループ両端描写不正確。

⑤ループ体7をリールの前に出したら、カラビナ2から出たロープ5を、竿110を持った左手の人差し指に掛け、引き付ける。右手でロープの他端（ギャフの反対側）のループ52を掴み、其のループ52を、竿110を持つ左手小指に掛ける。此れで、落とし込みの準備は整った。落とし込みは、フリーフォールに近い形で一気に落とした方がよい。前記左手人差し指で引き付けたロープ5を解放し、其れにより、ギャフに勢いをつけて、竿上を滑り落とさせ、ラインガイドを通過させる。右手でリールハンドルを回しながら、竿先を下げ、ギャフを竿伝い、ライン伝いに一気に落とす。リールを巻きながら竿先を下げる（以上は正規の方法）。又、上記とは別のバージョン（簡易方法）として、他端を小指に掛けるやり方ではなく、ロープ他端にカラビナを掛け、このカラビナをクーラーやバッグのベルト等に掛けて置いて、ロープ5を片手（＝リールハンドル側の手）で持ち、此れをしならせる事により、ギャフを竿上から払落し、ロープを手の中を滑り落とす方法があり、これは効果的である（→HPビデオシイラ編参照）。

⑥落とし込むと、ギャフセットは魚の口元に到達するので、ロープを右手で持って（右ハンドルの場合）、肘を支点に、鯛のテンヤ釣りをする要領で、手先を上下させてやると（図5の状態）、程無くズシリと重みが掛かる（魚を見て操作する必要は無い）。掛けるのに力を入れる必要は無い（ちゃんと掛かる、暴れる魚は何もしなくても勝手に掛かる→超簡単）。魚

体は水中に在り、空中にはラインや仕掛け等障害物がある訳であるから、ギャフをあまり空中に跳ね上げないようにした方がよい（力を入れるのは重みを感じてから・・ゆらゆらと揺らす感じ）。

⑦重みが掛かると同時に、ロープを引っ張り上げると、ガシリとギャフが食い込む（図6の状態）。針先の食い込みが、カエシ迄到達すれば、カエシ14が効いてギャフが外れる事はないが、食い込みが浅く、カエシまで到達していない場合は、魚が暴れる事により、針先が外れ、2～3回のやり直しもありうる。カエシ迄到達すれば、外れる事はまずないので、魚が大きい場合は、リールのドラッグを緩め、竿を置いて（ロープのテンションを抜いて構わない）、両手で引上げを開始する。魚が小さい場合は、ドラッグを緩めないまま、右手で引っ張ったロープを、竿を持つ左手の人差し指又は親指で挟む事によって間合いを詰め、其のまま引き上げる事も出来る。

大暴れしている魚の口元にギャフセットを送り込む訳であるから、どのような事も起こり得る。どのような事も起こり得るが、ギャフが機能しなくなるような致命的な事は起こらない。ルアーフックにガイド7が絡むのでは無いかとか、細かい事を心配する必要は無い。絡んだところで、ギャフは生きており、お構いなしに、ギャフを掛ければよい。ギャフはフックが二本あるだけのシンプルな構造で、揺り動かす限り、フリーレイで自らの重みで下に位置し、機能し続けるから、ラインが切れない限り/フックオフしない限り、ギャフ掛けの目的は果たされる。

5) ループ体(7)を巻き体として道糸ごと竿に巻く方法(特許) →図7参照、HP大物用ビデオ参照

前4)項で述べた通り、ループ体の内周は、カラビナ内側長寸も含めて、約58cmであり、リールを竿にセットした状態で竿及びリールの外周の寸法が58cm以上になるリールには、ループ方式(竿尻通し方式)が実行できません(スピニングリールは全て通過可能・・GT特大リールはハンドルから先に)。本ループ体が自分のリールを通過できるかどうか、事前に確認したい場合は、紐で58cmの輪を作り、竿にリールをセットして、この紐が通過できるかどうか試す事により、購入前確認ができます。通過できないリールに対して、本システムを使用する場合、竿巻き付け方式(リールの前側で竿に巻く)を実行する事になります。

ループ体(7)の両端に設けてある小ループ部71, 72の片方72(他端)をカラビナ2から外しておいて、取り込み時に、リールの前側で巻き体(ラッピングワイヤー/コード7)として道糸ごと元竿110に巻いてカラビナ2に掛けてやる事ができます。ロープに関する準備は、3)事前準備で説明したのと同じです。先ず、前記小ループ部71, 72の片方72を外します。其れにより、カラビナ2にはギャフ1のリング13を真ん中にして、手前側(ギャフの背側)にロープのループ51、先側(ギャフの前側)に線状となったワイヤー/コード7(巻き体)の小ループ部71(一端)が位置します。ワイヤー/コード7の小ループ部71, 72は手で持ってはカラビナ2の安全環25を通過出来るも、手を離せば安全環25に引っ掛かって其処で止まる寸法に製作してあります。

図7を参照し、小ループ部の一方71が安全環25の上側に位置しているのを確認してください(他方72はカラビナ2の外)。そうやってなければ、一方71を、安全環25を超えて上側に移動させてください。ポジショニングは、カラビナ2の背側から前側に向かってロープのループ51、ギャフリング13、安全環25、ラッピングワイヤー/コード7のループ71となります(指はカラビナ2の背側のロープループ51とワイヤー/コードループ71の間に入れる事になります)。此処までが事前準備です。魚が掛かって、ファイトを経て、竿下まで魚を寄せました。此処から、ギャフ掛けの全ムーブの開始です。

①基本姿勢を維持したまま、腰を少し下げ、右手をリールハンドルから離し、右手の指を、ギャフセットの安全環付きカラビナ2のロープループ51とワイヤー/コードループ71の間に掛け、取る。

②次に、竿110を持っている左手の人差し指を開き、右手人差し指から、左手人差し指にカラビナ2を受け渡す(左手人差し指はロープループ51とワイヤー/コードループ71の間)。各部材は重みがあるので、ギャフのリング13とロープのループ51はカラビナの下側に位置し、ワイヤー/コード7の小ループ部(71)は左手人差し指の前側で安全環25の上に引っ掛かっている。

③左手人差し指も合わせて竿110を握る。即ち、左手の他の四本の指は直接竿110を握り、左手人差し指はカラビナ2を間に挟んで竿110を握る事になる。

④次に、右手で、反対側72がフリーになってぶら下がっている巻き体=ラッピングワイヤー/コード7を掴み、竿110を越えて、反対側に投げ下ろす。

⑤すると、ワイヤー/コード7は、フリーの側72が竿110の向こう側に垂れ下がる。

⑥右手を竿110及び道糸130の下側から伸ばし、フリーになっているワイヤー/コード7の他端側ループ72を掴む。

⑦摘んだループ72をカラビナ2の開口部に押し当てやると、ワイヤー/コード7は適度の硬さがあるので、開口部がバネに抗して、開き、パチリと言う音共に、ループ72がカラビナ2内部に嵌まり込む(図7参照)。

⑧右手でカラビナ2の安全環25を回し、開口部をロックする。これで竿を立てた状態を維持したまま、単独でギャフセットの竿110への取り付けは完了した。ループ72を安全環25の上側へ移動する。ワイヤー/コード7はリール前でループを形成し、前項におけるループ体(7)と同じ状態になっている(竿尻通し方式でやった図4と同じ状態)。

⑨ループ7が完成したら、カラビナ2から出たロープ5を、竿110を持った左手の人差し指に掛け、引き付ける。右手でロープの他端(ギャフの反対側)のループ52を掴み、其のループ52を、竿110を持つ左手小指に掛ける。此れで、落とし込みの準備は整った。落とし込みは、フリーフォールに近い形で一気に落とした方がよい。前記左手人差し指で引き付けたロープ5を解放し、ギャフに勢いをつけて、竿上を滑り落とさせ、ラインガイドを通過させる。右手でリールハンドルを回しながら、竿先を下げ、ギャフを竿伝い、ライン伝いに一気に落とす。リールを巻きながら竿先を下げる(以上は正規の方法)。尚、上記とは別のバージョン(簡易方法)として、他端を小指に掛けるやり方ではなく、ロープ他端5

2にカラビナを掛け、このカラビナをクーラーやバッグのベルト等に掛けて置いて、ロープを片手（＝リールハンドル側の手）で持ち、此れをしならせる事により、ギャフを竿上から払落し、ロープを手の中を滑り落とす方法があり、これは効果的である（→HPビデオシイラ編参照）。

⑩以降は、前項4）使用方法の⑥以降と同じである。

6) 使用上の注意

A) 本ギャフをバッグに入れ、カラビナ等で腰（ボディ）に装着する事は、移動中であれ、釣り中であれ、大変危険ですから、厳禁します。此れを腰にぶら下げ、テトラの上で釣りをやって、魚が掛かったら、ギャフを取り出して、取り込もうなどと考えるのは論外、絶対にやってはいけません。転倒又は転落し、ギャフ上に体重が掛かった事態を想定すれば、最悪、怪我では済まない事も起こりえます。シース＝針先カバーがしてあったとしても、此れは体重を浴びせても、尚其れを保護するだけのプロテクション強度はありません。転倒、転落が有り得る状況下で、本品を体の近くに位置させる事（転倒、転落により体重がもろにギャフに乗っかり得る使い方、携行の仕方）は絶対に禁止です。

B) ギャフ掛けのムーブに入る時は、ドラッグを少し緩めてバランスを崩す事が無い様にしてから、入って下さい。

C) ギャフセットに手首に通す時はループ体7に背側から通して二本のフック12の針先が出来るだけ指先側（＝魚側）を向くようにしてください。

D) ロープの他端側（52）を体の何処かに固定する事は、危険ですから、絶対してはいけません（魚に引っ張られてバランスを崩す危険があります）。

7) 保守管理

本品はステンレスですが、使用后放置すれば、含有カーボンの影響により、多少の錆がきます。Stainless とは錆びないという意味ではなく錆びにくいという意味です。ステンレスにはその組成により、多くの鋼種があり、本品フック部は高強度特殊鋼を使用しておりますが、本鋼種は、一般的な鋼種（SUS304、等）に比較して、強度面に於いて勝りますが、防錆力に於いて劣ります。釣行後は速やかに水洗いをし、乾いた布で水分を拭き取って、防錆油（刀剣用がベスト）を塗布した後、其れを乾いた別の布で軽めに拭き取り、保管する事をお勧めします。その時点で既に錆がきていた場合はサンドペーパー等で錆を落とした上で同作業を行ってください。釣行前には必ず針先のチェックを行い、鈍っていれば、必ずヤスリ又は砥石等で針先を研いで、油を針先に塗布して、持参してください。針先が鈍って魚体表面を滑ってしまつてはフッキングしない訳です。本ギャフでは針先の鋭さは手の甲に当ててチクリと痛みが走る事が必要です。ベストは親指の爪に針先を垂直に当てて爪に刺さること（出荷時点ではそうなっています）。磯でなく堤防であっても、コンクリート表面には固い小石が混ぜられている事が多く、凹凸が激しいです。魚の重みが掛かった状態で、フッキングしていない残りのフックが表面を擦りながら、上がってくることになる訳ですから、ギャフは過酷な仕事をさせられます。ユーザーの、針先の鋭さに対する感性が無かったら、本ギャフはその能力をフルに発揮できません。本ギャフはフックの針先を内側に少し曲げています。本ギャフでは、そのシステムの威力が絶大である為、針先の張り出しや、フックの本数に頼る必要はありません。フックの針先が少し内側に向いている為（其れでもちゃんと掛かります）、魚引き上げ時には、リング13が起き（堤防又は磯表面から離れ→軸と表面が並行になる）、フッキングしていない残りのフックの針先は表面を擦るのではなく、表面から少し浮く（離れる）形となります。此れにより、フッキングしていない残りのフックは、表面の小規模な凹凸は、擦るのではなく、かわすことができます。此れは針先の鈍りを抑えるのに役立つでしょう。磯での使用も可能となりました。本ギャフは、掛けるのはシステムの力で掛け、引上げ時の障害物の回避はギャフの構造の工夫で行います。以上の工夫をしている訳ですから、高い感性を持って針先の鋭さに常に注意を払ってください。

8) システム比較

本中軸－青物取り込みシステムと、一般魚取り込みシステム（別品）、シーバス青物取り込みシステム（別品）、青物取り込みシステム（別品）との仕様比較は下記の通りです。

システム	サイズ	耐強度 kg	ロープ φm	適用高距 m	適用範囲 kg	最適範囲 kg	用途
一般魚用	小	25	4-13	2/3-12	0.7-10	1.3-6	浮き釣り、ライトルアー
シーバス青物	中	30	5-13	2/3-12	1.5-16	2-10	ライト、ミディアムルアー
中軸－青物用	大	60	6-13 8-14	2/3-12 2/3-13	2-20 2-24	3-15 3-20	カゴ釣り、本格SWルアー
青物用	大	70	6-15	2/3-14	2-20	3-15	カゴ釣り、本格SWルアー

注) 適用高距最低値は、ルアーは2m、餌釣りは3mです。適用範囲の最大値はロープ径をネックとしたもので、ギャフの強度限界（＝耐強度）を示すものではありません。本品はシステム販売。中軸－青物用では付属ロープは6mm又は8mmで、ファイトで腕力を消耗しなかったとしても、6mmロープでは20kg（8mmロープでは24kg）位まで

しか力が出ません、という意味です。→それ以上の適用には太ロープへの付け替えを。

製造販売、服部商会

〒862-0901 熊本県熊本市東区東町 4-16-9-406

TEL : 096-365-0269

E-Mail :